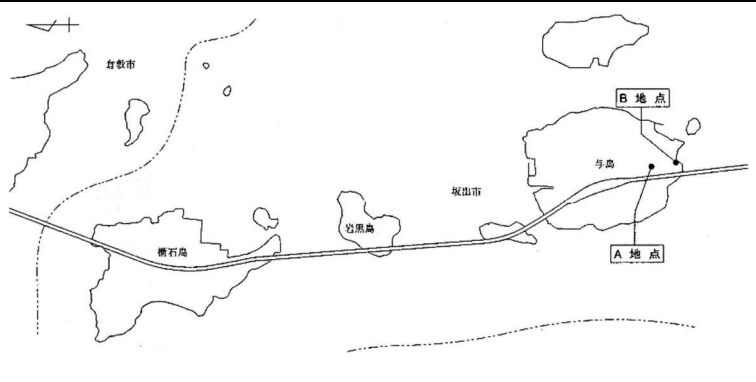


令和6年1月19日(金)
環境管理課
大気保全・環境安全グループ
担当：真鍋(内線2864)
ダイヤルイン 087-832-3219

令和5年度瀬戸大橋騒音調査結果

瀬戸大橋を走行する鉄道の島しょ部における騒音の現況を把握するため、与島の2地点で騒音調査を実施した結果、昭和53年に本州四国連絡橋公団(現在の本州四国連絡高速道路株式会社)が設定した環境保全努力目標を達成していました。

- 1 調査日時 令和5年12月12日(火)12時～13日(水)12時
2 調査地点 計2地点

調査地点		橋からの距離	
与島	A地点	約50m	
	B地点	約80m	

- 3 調査機関 香川県(環境管理課、環境保健研究センター)、坂出市(生活環境課)
4 調査方法等 調査期間中に通過した列車について、各列車の騒音の大きさ(騒音ピークレベル)を測定し、上り・下り列車を合わせて、連続して通過する20本の列車のうち、騒音の大きさが上位10本の平均値(評価値)を算出して、評価しました。
5 調査結果 いずれの調査地点においても、環境保全努力目標を達成していました。

調査地点		評価値(単位:デシベル)		
		今回調査結果(最高～最低)	前回調査結果(最高～最低)	環境保全努力目標
与島	A地点	74～72	78～72	80
	B地点	73～71	76～72	80

[注1] 環境保全努力目標は、昭和53年に本州四国連絡橋公団が作成した環境影響評価書において定められたものです。同評価書では、一般区間80デシベル、橋梁区間85デシベルを環境保全目標として設定し、努力目標としてそれぞれ5デシベル程度低減することとしています。なお、今回調査した与島2地点は、橋梁区間に該当します。

[注2] 評価値は、新幹線鉄道騒音の環境基準において使用される騒音の評価方法を一部準用して算出しています。

[注3] 前回調査結果は令和4年度(令和4年12月5日～6日)の調査結果です。

6 前回調査との比較

[単位：デシベル]

測定地点 項目		列車本数	与島			
			A地点		B地点	
		今回 (前回)	今回 (前回)	増減	今回 (前回)	増減
評価値	最高値	/	74 (78)	-4	73 (76)	-3
	最低値		72 (72)	0	71 (72)	-1
全列車の 騒音ピーク レベル	最高値		76 (80)	-4	75 (80)	-5
	最低値		66 (65)	+1	64 (64)	0

列車種類別の騒音ピークレベルの平均値	全列車	139 (140)	71.5 (73.5)	-2.0	70.2 (72.5)	-2.3
	電車特急	32 (32)	72.0 (71.9)	+0.1	70.8 (71.2)	-0.4
	しおかぜ 8000系/8600系	30 (30)	71.9 (71.8)	+0.1	70.7 (71.2)	-0.5
	サンライズ 瀬戸 285系	2 (2)	73.5 (72.6)	+0.9	72.6 (72.3)	+0.3
	ディーゼル特急 南風 2700系	28 (28)	71.8 (76.9)	-5.1	70.2 (75.8)	-5.6
	マリンライナー 5000系	73 (73)	71.2 (72.1)	-0.9	69.7 (70.7)	-1.0
	貨物	6 (7)	70.7 (72.6)	-1.9	71.7 (73.0)	-1.3

[注1] 前回調査結果は令和4年度（令和4年12月5日～6日）の調査結果です。

[注2] ダイヤ改正等により、今回と前回の調査には列車本数に違いがあります。

[注3] 列車種類別の騒音ピークレベルの平均値は、各列車の騒音ピークレベルをパワー平均したものです。

【参考資料】

昭和 63 年4月の本州四国連絡橋(児島・坂出ルート)開通に伴う鉄道騒音問題は、各種の対策が行われるたびに、騒音調査を実施し、地元住民への説明、関係機関への要請などを行ってきました。

これに対し、本州四国連絡橋公団(本四公団、現在の本州四国連絡高速道路株式会社)は、橋上での各種防音工事等を行いました。

また、四国旅客鉄道株式会社(JR四国)などは、これまでに深夜・早朝列車の減速、新型車両の導入、車輪旋盤の設置、橋上の特定区間における惰行運転などの騒音低減対策を実施してきました。

これらの対策により、昭和 53 年に本四公団が作成した環境影響評価書で定めた環境保全努力目標を達成するようになりましたが、地域住民の生活環境を保全するため、引き続き、県と坂出市が共同で騒音調査を実施しています。

調査結果(評価値)の推移

(単位:デシベル)

調査年月	評価値(最高～最低)				備 考
	与 島		岩 黒	櫃 石	
	A地点	B地点			
昭和63年4～7月	85～82	85～81	81～80	79～78	瀬戸大橋の開通・供用直後
昭和63年11月	83～79	84～79	78～74	79～74	本四公団、JRの防音・減音対策後
平成元年7月	82～79	83～77	76～73	78～75	ディーゼル特急列車の減速措置後
平成2年12月	80～78	80～78	76～73	74～72	JR等による諸対策効果の確認
平成3年6月	79～77	78～74	75～71	75～72	JR四国による列車走行音測定試験
平成3年7月	78～76	76～74	72～69	72～70	ディーゼル特急列車の減速措置2年後
平成3年8月	78～76	77～74	72～69	72～70	ディーゼル特急列車速度復旧試験の確認
平成3年11月	79～77	77～74	75～71	73～72	ディーゼル特急列車の速度復旧後
平成4年7月	79～77	76～74	75～73	73～70	環境保全努力目標達成状況の確認
平成5年4月	79～77	76～74	75～73	76～74	8000系電車特急の導入後
平成5年8月	—	—	—	69～67	櫃石の確認
平成7年 ～平成12年	80～77	80～78	74～72	73～70	環境保全努力目標達成状況の確認
平成13年12月	79～77	81～79	75～72	71～68	環境保全努力目標達成状況の確認
平成14年5月	78～76	79～77	—	—	与島の確認
平成14年12月	76～75	78～75	72～70	69～66	環境保全努力目標達成状況の確認
平成15年10月	76～75	77～75	—	—	新型マリンライナー導入後の調査
平成15年12月	77～76	78～76	71～69	68～66	環境保全努力目標達成状況の確認
平成16年12月	77～76	78～75	72～68	69～66	環境保全努力目標達成状況の確認
平成17年12月 ～20年12月	77～75	79～74	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成21年12月	78～75	79～74	—	70～67	環境保全努力目標達成状況の確認
平成22年12月	77～76	76～72	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成23年12月	75～72	79～75	72～71	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成24年12月	74～72	80～75	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成25年12月	77～72	80～76	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成26年12月	74～72	80～77	—	68～64	環境保全努力目標達成状況の確認
平成27年12月	73～72	79～74	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成28年12月	79～72	80～77	77～70	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成29年12月	80～76	84～80	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
平成30年5月	75～73	77～74	—	—	与島の確認
平成30年12月	75～73	78～74	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
令和元年12月	77～74	76～74	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
令和2年12月	75～70	74～71	—	71～68	環境保全努力目標達成状況の確認
令和3年12月	74～70	74～71	75～72	—	環境保全努力目標達成状況の確認
令和4年12月	78～72	76～72	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
令和5年12月	74～72	73～71	—	—	環境保全努力目標達成状況の確認
環境保全努力目標	80	80	80	75	75:一般区間 80:吊橋等長大橋梁区間